

MIRAI

[人と防災未来センターニュース]

観覧者200万人達成!	1
「夏休み防災みらい学校2006」開催	2
来館者の声	4
資料室のページ	5
「図上訓練・広報マスコミコース」の実施結果について	6
実践的防災研究の紹介と意見交換会	7
新任研究調査員紹介	8

観覧者200万人達成!

平成18年7月8日、人と防災未来センターの観覧者が平成14年4月27日のオープン以来のべ200万人に達しました。200万人目の観覧者は和歌山県日高川町校長会・教育委員会の合同研修会で来館した三木忠嗣さんでした。

河田センター長から花束と防災グッズなどの記念品が贈られ、三木さんは、「今日は、和歌山県日高川町校長会・教育委員会の合同研修会で来館しました。私が200万人目ということで、大変驚き、この幸運にとっても感謝しています。今回の研修目的は、子どもの安全や危機管理についてです。この施設を見学し、震災について学ぼうとしていたところです。今回、研修で一緒に訪れた22名の校長先生や教頭先生の中には、すでに子ども達と何度も訪れている方もおられます。今、日高川町では、学校の耐震対策が急務となっており、改めて、この施設で震災についての予備知識を学んでいこうと考えています。」と感想を述べられました。



河田センター長から花束を手渡される三木さん（左）

センターには平成15年以降、日本国内だけでなく海外の方も含めて毎年50万人以上の方にご来館いただいております。今後も多くの方に来ていただけるような魅力ある施設にするよう努力してまいります。

人と防災未来センターのべ観覧者数



センターの夏のイベント！ 防災の今と未来を考える「夏休み防災みらい学校 2006」

センター専任研究員による防災の先端成果を一般のみなさまにわかりやすく紹介するため開催した昨年の「ふれあい防災Day」に続き、2回目となる今回はスクール形式に拡大しての開催となりました。

開校式で大野副センター長は「この学校を契機に、市民の防災力の向上につながることを期待したい」とあいさつ。8月26日・27日の二日間にわたり防災未来館1階で行われた全10プログラムに、親子連れなどのべ約250人が参加しました。

なお、このイベントの様子は下記のサイトでご覧になれます。

<http://www.hyogo117tv.jp>



開校式の様子



防災教室

「阪神・淡路大震災の経験と教訓」「世界で起こっている災害」「今後の災害に対して備えること」の3つを主なテーマとして、防災教室を開催しました。



防災教室①

「阪神・淡路大震災の被害と復興過程を学ぶ」では、堀江専任研究員が「阪神・淡路大震災で何が起きたかー被害状況とその発生原因を知るー」というタイトルで、阪神・淡路大震災で発生した被害の状況と被害の発生した原因等の説明を行いました。次に越山専任研究員が「被災地のすまいの復興過程について」というタイトルで、阪神・淡路大震災の発生から被災者の住宅が時間経過とともにどのように再建されてきたかについて報告しました。

防災教室②

「世界の災害を知る」では、近藤民代専任研究員が「米国ワールドトレードセンタービルの同時多発テロ後の市民参画型の復興プロセス」というタイトルのもと、アメリカで2001年9月11日に発生したWTCビルのテロ災害後の復興計画の策定方法と復興過程等について報告を行いました。また近藤伸也専任研究員は「イラン・イスラム共和国とパキスタン・イスラム共和国の地震災害」というタイトルで、2003年12月にイランで発生したバム地震、2005年10月にパキスタンで発生した地震と災害の様相について報告しました。

防災教室③

「今後の災害に備える対策を知る」では、鈴木専任研究員が「東南海・南海地震の津波からまちを守る対策」というタイトルで、東南海・南海地震の津波災害の危険性と対策の考え方等が示されました。続いて平山専任研究員が「災害時のごみはどうするのか?!」というタイトルで、災害時に発生する廃棄物（災害ごみ）の問題と災害ごみの発生量及び処理の方法の考え方等の講義を行いました。

各教室には高校生・大学生や一般の方々等、幅広い年齢の方々のご参加があり、専任研究員の講義に興味を持って聴いていただけました。



基調講演

2日目午後の基調講演では、河田恵昭センター長が、「どのようにして災害とつきあうのか」というテーマで、国内や海外で将来発生しうる災害の危険性と対策について講演しました。

東南海・南海地震とそれに伴う津波、首都直下地震、日本のいたるところで発生しうる活断層型地震、年々増加しつつある豪雨や洪水、台風や高潮といったさまざまな災害の危険性が現在高まりつつあること、またそれらの災害時に発生する被害がどのようになるかといったことを、自然現象の発生メカニズムや統計データ、これまでの災害の被災事例、教訓などからわかりやすく紹介しました。

そして、被害に遭わないために、あるいは被害を軽減するためにぜひ知っておきたい災害や防災に関する知識、今後の災害に備えていくためにどのように考えて行動していくのかといったことについて、参加されたみなさんに訴えかけました。



災害の危機管理の基本などについて講義する河田センター長

体験タイム

体験教室1「ロープの結び方」には、親子や高校生など16人が参加。2本のロープを結び「本結び」や、簡単で重さがかかるほどよくしまる「まき結び」、輪がしっかりしているので人命救助に使用できる「もやい結び」の3種類についての実習がありました。



ロープの結び方を学ぶ

また、体験教室2「いざというとき知っておきたい、三角巾の使い方」では、基本となる三角巾のたたみ方に加え、頭、腕、足膝のくくり方を18人の参加者らが二人一組になって挑戦しました。

講師を務めた運営ボランティアの野村勝さんは、現役時代は救急隊員として電車の飛び込み事故や出産現場など約6千回の現場経験があります。その経験から、「人間の血液は体重の13分の1あるが、その3分の1を失うと生命に危険が生じ、半分を失うと大量出血のため死亡してしまう。いかに初期段階での止血が重要かを理解してほしい」と、直接圧迫法や止血法による止血の重要性を指摘しました。



三角巾の結び方を学ぶ

家庭や車に三角巾を最低1枚ずつは備えてほしいと訴える野村さんに、灘区から来た男性も「今日は貴重な経験で大変勉強になった。家庭に帰って子どもたちに教えたい」と笑顔で話してくれました。

ワークショップ

◆ワークショップ1

「親子で取り組む地震防災シミュレーション
～もしも今、大地震がおこったら!?～」

ワークショップ1には、13組26名の親子が参加。大地震で家が倒壊するとの想定で、地震が起きた際、何が防災グッズとして必要かを議論しました。



必要な防災グッズを選ぶ

スリッパを選んだ参加者には、被災経験のあるボランティアから「シャツを足に巻くとか代用品はある。まずは身を守るためにどう避難するかを考えないと」と厳しい指摘も。この後の報告会では、家庭から脱出する際は懐中電灯・ラジオ、救助にはロープ・毛布、避難所では簡易トイレ・サバイバルブランケットと、場面ごとに必要となる基本グッズに違いがあることもわかりました。「通常の生活なら考えられないが、阪神・淡路大震災では20歳以下の死亡者が全体の2割に達した。子どもの



防災グッズを手に、選定作業を進める参加者ら

命を守るということの大切さを再認識してもらえたのでは」と企画に携わった永松専任研究員は話していました。

◆ワークショップ2

「つなみってどんなもの?～紙芝居・稲むらの火から学ぼう～」

幼児・小学生を対象にしたワークショップ2には、子ども15人とその保護者が参加。大型紙芝居「稲むらの火」の実演や、スマトラ沖津波・地震で被害にあったタイの子どもたちが書いた作文集の読み聞かせなどを行い、津波防災について理解を深めました。



「稲むらの火」を読み上げる展示ボランティアの早川弘さん

紙芝居の後、鈴木専任研究員扮する「つなみ博士」が、津波のしくみについて、物語風にわかりやすい絵で説明。津波が起こった時にどこに逃げるかの質問に、子どもたちは「お家のマンション」「学校」などと元気に答えていました。後半では、タイ・ピビ島で妹を亡くした小学3年生の男児の作文を読み上げると、それぞれしんみりとした表情で聞き入っていました。

最後に「津波の顔」をテーマに絵を描きました。山のように盛り上がり、人やビルを飲み込む津波や、風を起こしながら押し寄せる力強い津波など、感性あふれる自在な絵に、保護者も感心しきりの様子で見入っていました。



津波の絵を描く子どもたち



創造性あふれる力作が並んだ

来館者の声

～夏休み防災みらい学校参加者より～

- ・小さい子供から大人まで様々な年代の人が意見をを行うことで防災意識が高まると思う。これからもこのようなイベントをもっと開催して欲しいです。
(神戸市・10代・男性・「ワークショップ1:親子で取り組む地震防災シミュレーション」参加)
- ・ロープの結び方が色々あってそれぞれ使い道が違い便利だと思いました。ぜひ覚えたいです。小さな子から大人までふれ合いの場があって良い経験になりました。
(神戸市・10代・女性・「体験タイム①災害時に役立つロープの結び方」参加)

- ・子供の視点に合わせたプログラム内容であり小学1年生の子供と参加させてもらいましたが、親子共分かりやすく、良かったと思います。
(神戸市・30代・女性・「ワークショップ2:つなみってどんなもの?」参加)
- ・市民が災害について知るきっかけ、学ぶきっかけができた。研究員の日頃の研究成果を知ることができたほか、子供でも参加できるプログラムがあり有意義だと思いました。
(神奈川県・40代・男性・「防災教室①阪神・淡路大震災の被害と復興課程を学ぶ」参加)
- ・大変満足でした。世界の災害というのにあまり目を向けることがなかったので、良い機会でした。
(神戸市・20代・女性・「防災教室②世界の災害を知る」参加)

◎ その他の夏イベント ◎

センターでは夏休み期間中、子どもたちを主な対象とした多彩なイベントを開催しました。

防災未来館では、起震車体験などの屋外イベントのほか、体験ラリー、レスキューロボットの実演など、防災知識を高めることができるさまざまな学びの場を提供。ひと未来館では、楽器づくりや手話体験、ポストカードづくりなどのワークショップや絵本の読み聞かせなど、家族で楽しめるイベントを催しました。

防災未来館

屋外体験イベント

8月10日(木)～13日(日)の4日間、センターカリオン前広場で行いました。阪神・淡路大震災と同じ震度7の揺れを体験できる地震体験車には、帰省客や近隣の方々など、のべ904人が参加。体験された方には兵庫県企業庁の非常用飲料水のプレゼントもありました。

また初日と二日目には、神戸市中央消防署の協力により、水消火器を使った消火体験や、中に入ると視界が利かなくなる体験ができる煙ドーム、消防車の展示もありました。



水消火器を使った訓練

挑戦しよう!地震発生、さあどうする!?体験ラリー

親子で体験できる参加型のラリーイベントを7月19日(水)から9月3日(日)まで防災未来館2階で行いました。

参加者らはスタート地点でラリーシートを受け取った後、ロープ訓練や、ハザードマップでの避難場所確認、災害時の連絡手段である「災害伝言ダイヤル」チェックなど各ポイントの設問を巡り、防災知識を次々に習得。

最後まで挑戦できた方には、記念品として「非常持ち出し品チェックリスト」ポストカードが配られました。



体験ラリーでは各ポイントで防災知識を学習する参加者

ひと未来館

ひと未来ワークス2006

音やことば、水をテーマにした展示を、7月19日(水)から9月3日(日)まで行いました。



熱心に楽器づくりに取り組む参加者

期間中の土日には、それぞれのテーマに沿ったワークショップを展開。

「音～リサイクルで楽器づくりに挑戦!～」では、割り箸やゴム、紙皿といった身近なリサイクル素材で輪ゴムギターや空き缶太鼓などを制作。「ことば～『こ

んにちは』から広がる輪～」では、いろいろな国の言葉に触れた後、点字カードづくりを体験しました。



ことばのワークショップでは点字カードを作成

また「水～つくろう、水の惑星ポストカード～」では、墨流しを地球に似せた円形色紙に写し取り、ポストカードに仕上げました。



水の不思議な流れを色紙に写し取る親子連れ

資料室のページ

定点観測写真展 阪神・淡路大震災—変化する街の様子とその記録

8月8日(火)から9月18日(月)まで、防災未来館1階にて写真展を開催しました。センター所蔵の写真資料のうち、震災時あるいはそれ以前から震災後まで定点観測がなされていて神戸市内を対象としたものの中から17地点40枚を展示しました。なお、定点観測写真とは、同一地点で時間を隔てて撮影した写真群のことです。また、これらの一部の資料と関係が深い実物資料も2点展示しました。

企画展の様子



防災未来館ロビーの様子



防災未来館ロビーの様子



鷹取商店街アーケードの看板の一部「街」



側溝の蓋

展示内容について



写真資料を一部紹介します。

神戸市東灘区。ここは被害が大きかった地域のひとつです(写真1-1)。現在は復興が進み、人口も増加しています(写真1-2)。

神戸市長田区。火事による被害が大きかった地域です(写真2-1)。現在、復興は進んでいますが人口は震災前の水準に戻っていません(写真2-2)。

阪神・淡路大震災といえば東灘区・長田区の被害がよく取り上げられますが、他の地域でも被害はひどいものでした(写真3-1・3-2:写真は神戸市中央区)。

震災から11年が経ち、街並みががらりと変わると記憶の風が起こりがちです。企画展を通して震災への思いを新たにできればと思っています。

震災当時



写真1-1 東灘区



写真2-1 長田区



写真3-1 中央区

その後



写真1-2 東灘区



写真2-2 長田区



写真3-2 中央区

興味をもたれた方は・・・

資料室へお越しください。

震災前・震災直後・現在の様子がわかるモニターをご利用いただけます。神戸市中央区の三宮を通るフラワーロードをCGで再現したもので、手で触れて操作できます。

企画展で展示した資料

写真資料 40枚 (神戸市内17地点の各地点で2、3枚)

[内訳:東灘区14枚 長田区12枚 須磨区2枚

兵庫2枚 灘区6枚 中央区4枚]

実物資料 2点 (長田区1点、灘区1点)

資料室:防災未来館2F(無料でお入りいただけます)

<開室時間>9:30~17:30(7~9月は18:00)

<閉室日>毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)・12月29日~1月3日

<お問い合わせ>078-262-5058

災害対策専門研修 「図上訓練・広報マスコミコース」の実施結果について

人と防災未来センターでは、地方自治体の災害対策本部運営のノウハウを習得することを目的に、災害対策専門研修 特設コース「図上訓練・広報マスコミコース」を実施しました。このコースは、センターが開発したコンピューターソフトを用いて、仮想地域における直下型地震の発生後にテレビや関係機関を通じてもたらされる様々な情報のやりとりや情報をもとにした意思決定などを行う実践的なものとなっています。また、単なる模擬の演習にとどまらず、報道機関関係者の協力を得て、現役の記者が演習中に取材活動を行い、さらに記者会見シミュレーションを組み合わせた構成となっています。図上演習にマスコミ対応を含めた構成は、全国的にもユニークな試みであるといえます。

このコースは平成18年7月31日（月）から8月2日（水）の3日間で行われ、初日は永松専任研究員の「災害対策本部のあるべき姿とは」と題した講演で災害対策本部の理想像の共有を図った後、オリエンテーション、演習と実施しました。午後からの演習では「平成18年7月10日（月）午後1時ごろ、



X県沖を震源とするM7.3の大規模な地震が発生」という想定のもとに災害発生から2時間の演習を1県2市の3班に分かれて実施。その後、災害対策本部会議を実施しました。



二日目は、各班から演習を振り返っての発表があり、首長役であった専任研究員が講評を行い、受講者と問題点を議論

しました。午後からは「マスコミ対応を効果的に行うために」、「災害対応業務の目標・戦略・戦術の立て方」と題した講義を行い、その後、最終日の演習に向けた各班の作戦会議が行われました。

最終日は、初日の演習の続きということで、災害発生後の2時間後から開始しました。災害対応業務の能力は初日に比べて向上しているものの、初日以上の記事による取材活動に受講者がタジタジになる場面も見られました。演習後の記者会見シミュレーシ



ョンでは、本番さながらの質問が出るなど白熱したものとなりました。最後に、受講者が自治体に戻った後の活動に生かせるよう、「災害対応業務」について専任研究員が、「マスコミ対応、情報提供のあり方」について記者がそれぞれ講評し、濃密な3日間が終了しました。

このコースには、近畿・中部地方を中心に北は北海道（札幌市）から南は福岡県（久山町）まで全国各地から参加がありました。受講者からは、「期待以上の演習であり今後の防災業務に役立てることができ」「単なる図上演習に加えてマスコミ対応を加えた内容は評価できる」という意見があった一方、「マスコミ対応に余裕が持てなかった」「災害対策本部としての広報についてもう少し踏み込んだ訓練、研修をしてほしい」などの多くの貴重な意見もいただきました。

今回のコースでは、永松専任研究員、近藤伸也専任研究員を中心とし、過去の問題点を洗い出し、目的を明確にするとともに、研修成果や研究を踏まえた新しい内容に再編しました。今後も評価やその他の反省点等を踏まえ、さらに実践的な研修に改良し、自治体の防災力の向上に貢献していきます。



人と防災未来センターにおける 実践的防災研究の紹介と意見交換会

平成18年5月29日、内閣府において、また、平成18年6月21日、兵庫県において、「人と防災未来センターにおける実践的防災研究の紹介と意見交換会」が開催されました。

平成18年4月に当センターが事業を開始してから4年が経過し、研究の成果は着実に蓄積されつつあります。そこで、防災関係省庁の政策担当者や研究機関の研究者・地方自治体の職員を対象に、その成果を紹介するとともに、当センターにおける実践的防災研究のあり方について意見交換を行いました。



内閣府意見交換会

まずはじめに、河田恵昭センター長から、当センターにおける実践的防災研究とはどのようなものであるのかについて話がされ、続いて大野淳副センター長より当センターの実践的防災研究の取り組みについて発表がされました。引き続き専任研究員6名が研究の紹介を行いました。



兵庫県意見交換会

内閣府意見交換会には53名が、兵庫県意見交換会には34名が参加し、減災対策に関する具体的な研究成果や自治体に研究成果を具体的に適用するなど、各自治体で役立つ研究成果を期待したいなどの意見がありました。

防災 Q & A

Q 自分が住んでいる地域で予想される津波を教えてください。

A 海底地形や海岸線の形状や陸域の地形等の影響で、地域により予想される津波の高さや浸水範囲は異なります。お住まいの地域の想定地震に対する来襲津波の高さや浸水範囲については、お住まいの役所へお問い合わせください。現在、津波ハザードマップや津波浸水予測図等と呼ばれる地図の形で役所から各地域へ想定される津波をお知らせすることが順次進められています。

[関連情報]

- 岩手県 津波浸水予測図
http://www.pref.iwate.jp/~hp010801/tsunami/yosokuzu_index.htm
- 宮城県 津波ハザードマップ
<http://www.pref.miyagi.jp/sabomizusi/bousai/tunami-top.htm>
- 三重県
http://www.bosaimie.jp/mie/05_moshimo/04_keikaku/tidalwave.html
- 和歌山県の津波浸水予測図について
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/050425/top.html>
- 大阪府の津波ハザードマップ
<http://www.pref.osaka.jp/kikikanri/crisis/plan/tounankai/hazardmap/hazardmap.html>
- 兵庫県 ハザードマップ
<http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/hazmap/top.htm>
- 徳島県 津波浸水予測調査の結果について
<http://www.pref.tokushima.jp/Generaladmin.nsf/topics/8E200F687A30479849256EA800387A09?opendocument>
- 高知県 津波浸水予測図
<http://www.pref.kochi.jp/~shoubou/sonaetegood/flood/index.html>

新任研究調査員紹介



新研究調査員
川西 勝
(読売新聞大阪本社科学部主任)

人と防災未来センターでは、マスコミ関係企業、ライフライン関係企業等の職員の派遣を一定期間受け入れ、当センターと協力して、減災に資する調査・研究を行う研修を実施しています。今年6月末に安富 信 研究調査員が1年間の派遣期間を終了し、読売新聞大阪本社編集委員として派遣元に戻るようになりました。今後は人と防災未来センターで得た経験を是非活かしていただき、一層のご活躍を期待するとともに、リサーチフェローとしてセンターの活動に協力していただきます。

また、7月より新しく研究調査員を採用しましたのでご紹介します。

「新研究調査員より一言」

7月から研究調査員として派遣され、新聞記者と「二足のわらじ」を履きながら、災害報道の勉強をしています。11年前に阪神・淡路大震災が起きた時、神戸総局に勤務していたため、何の準備もないままに震災報道に取り組みました。それ以来、手探りしながら防災・減災の勉強をしてきましたが、このたび新聞社から一歩離れた立場で考えられるよい機会を与えられました。減災に貢献できる活字メディアのあり方を模索したいと思っています。

研究テーマ

- 行政や研究者と連携して、市民の減災活動を実現させる仕組み作り
- 災害時における行政機関の広報戦略に関する研究
- 原因追究型の災害報道を目指した実践活動
- 新聞を活用した減災教育の研究

「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会はセンターの活動に協力し、連携しつつ社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立し活動を行っています。

会員特典

1. センター無料入館
2. 招待券進呈
3. 情報提供
4. 各種行事に参加など

10月以降に入会された方は半額になります。

お問い合わせ (078) 262-5060
普及事業部総務課内友の会事務局

年会費

個人会員 3,000円

法人会員 一口 50,000円

郵便振替：00940-2-160211

口 座 名：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター友の会



MIRAI

【人と防災未来センターニュース】 Vol.19

発行 / 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念



〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
総務課 / TEL. (078) 262-5060
観覧案内 / TEL. (078) 262-5050
ホームページアドレス / <http://www.dri.ne.jp/>

●開館時間 9:30~17:30(入館は16:30まで)
ただし、7~9月は9:30~18:00
(入館は17:00まで)
金・土曜日は19:00(入館は18:00まで)

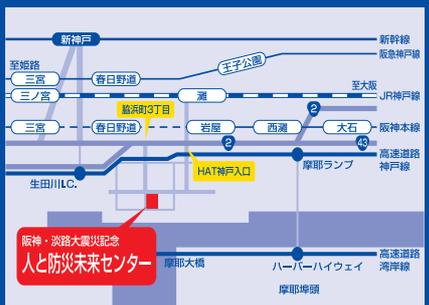
●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク(4月28日~5月5日)期間中は無休

●入館料金(団体は20名以上)

区分	防災未来館		ひと未来館		両館	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロカードを提示すれば無料。
障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



- 交通 鉄道 / 阪神「岩屋駅」「春日野道駅」から徒歩約10分・JR「灘駅」南口から徒歩約12分。阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。
バス / JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。
神戸市営バス 三宮駅前から約1時間間隔で運転。
阪神電鉄バス 三宮駅前から約30分間隔で運転。
車 / 阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)のほかに近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所

予約制 / 無料
観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。

平成18年10月発行